

平成27年7月31日

平成27年度病害虫防除技術情報（第4号）

和歌山県農作物病害虫防除所

カンキツかいよう病の発生状況について

1. 調査地域 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）
2. 調査時期 7月中旬
3. 調査結果

- 1) カンキツ全体の発生園率は春葉42%（平成26年29%）、果実20%（平成26年11%）といずれも平成26年に比べて高い。通常は発生が少ないウンシュウミカンにおいても、発生園率は春葉24%（平成26年11%）、果実6%（平成26年2%）と高い（表1）。
- 2) カンキツ全体の発病率は春葉0.9%（平成26年3.7%）、果実0.7%（平成26年1.2%）といずれも平成26年に比べてやや低い。ウンシュウミカンの発病率は春葉0.4%（平成26年0.7%）と平成26年に比べてやや低いが、果実は0.3%（平成26年0.1%）とやや高い（表2）。

表1. カンキツかいよう病の発生園率(%)

		平成	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	平成
		17年											
カンキツ	春葉	70	45	22	15	14	25	30	31	23	12	42	29
	果実	20	17	0	9	5	12	13	14	13	5	20	11
うちウンシュウミカン	春葉	46	24	0	0	0	6	9	18	3	3	24	11
	果実	11	0	0	0	0	6	3	0	0	0	6	2

表2. カンキツかいよう病の発病率(%)

		平成	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	平成
		17年											
カンキツ	春葉	13.4	14.1	2.6	0.4	0.5	1.6	2.6	1.0	0.8	0.2	0.9	3.7
	果実	2.6	3.1	0.0	0.6	0.4	1.5	1.0	0.9	1.3	0.2	0.7	1.2
うちウンシュウミカン	春葉	2.4	1.6	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.7	0.1	0.1	0.4	0.7
	果実	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1

4. 防除上の注意事項

- 1) 病原細菌は気孔感染のほか台風等による強風で生じた傷口から感染する。罹病性品種の場合は9月末まで、ウンシュウミカンでも8月上旬まで果実に感染する。このため、今後の気象条件によっては被害が拡大するおそれがあるので、以下の対策を励行する。
 - ①防風垣や防風ネット等を設置して防風対策に努める。
 - ②春葉及び夏秋梢の病斑は伝染源となるので剪除に努める。樹冠拡大を図っている幼木、高接樹等では特に徹底する。
 - ③罹病性品種の栽培園や常発園、多発園では気象情報に留意し、台風等の強風雨が予想される場合には銅水和剤の予防散布を行う（薬害軽減のための措置を講じる）。
- 2) 農薬については、最新の登録情報（(独)農林水産消費安全技術センター・農薬登録情報提供システム http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。

担当：農作物病害虫防除所
有田川駐在
井沼、中
電話：0737-52-4320